

コリネバクテリウム・ウルセランス感染症に関するQ&A

平成 21 年 7 月 22 日作成

平成 30 年 1 月 10 日更新

【一般の方向け】

- Q1 コリネバクテリウム・ウルセランス感染症とは？
- Q2 人への感染経路は？
- Q3 臨床症状は？
- Q4 治療方法は？
- Q5 感染予防のためには？
- Q6 ペットが感染したかもしれないと思った時は？
- Q7 日本での発生状況は？
- Q8 諸外国での発生状況は？

【専門家、特に医療関係者と獣医師の方向け】

- Q9 ジフテリア菌との違いは？
- Q10 診断方法は？
- Q11 治療方法は？
- Q12 感染が疑われるペットの検査は？
- Q13 ジフテリア菌とウルセランス菌の鑑別は？
- Q14 ウルセランス菌による感染が診断された動物への対応は？

【一般の方向け】

- Q1 コリネバクテリウム・ウルセランス感染症(以下「当該感染症」という。)とは？

ジフテリア菌 (*Corynebacterium diphtheriae*) と同様にコリネバクテリウム属に分類されるコリネバクテリウム・ウルセランス (*Corynebacterium ulcerans*、以下、ウルセランス菌) という細菌によって引き起こされ、ジフテリアによく似た症状を示す感染症です。

- Q2 人への感染経路は？

当該感染症は、人、犬、猫、牛のほか、様々な動物において感染事例が確認されており、咽喉頭、肺、皮膚、乳腺などに、様々な症状を呈する動物由来感染症です。

海外においては、乳房炎や関節炎に罹患した牛の生乳からの感染が主に確認されました[1-3]。最近では、ウルセランス菌に感染した犬や猫からの感染が国内外で広く確認されるようになっていきます[3]。

なお、人から人への感染事例は、国内では現在まで報告がなく、国外においても、非常にまれです[4, 5]。

- Q3 臨床症状は？

基本的にジフテリアと類似した臨床症状を示します。呼吸器感染の場合には、初期に風邪に似た症状を示し、その後、咽頭痛、咳などとともに、扁桃や咽頭などに偽膜形成や白苔を認めることがあります。重篤な症状の場合には呼吸困難等を示し、死に至ることもあります。また、呼吸器以外（頸部リンパ節腫脹や皮膚病変）の感染例も報告されています[3, 6]。

- Q4 治療方法は？

抗菌薬が有効であるとされています[6]。国内においては、マクロライド系抗菌薬の使用による回復例が報告されています。

Q5 感染予防のためには？

人での国内感染事例の多くは犬や猫からの感染であることが確認されており、ウルセランス菌に感染した動物と接する場合には注意が必要です。感染した動物は、くしゃみや鼻汁などの風邪に似た症状や皮膚病を示すことがあり、動物間で感染が拡大することも報告されています[7]。

一方で、無症状の保菌動物の存在も報告されています。ただし、過度に神経質になることよりも、一般的な衛生管理として動物と触れあった後は手洗いを確実にすることなどにより、感染のリスクを低減することが重要です。

国内では、人に対する定期の予防接種の対象である3種混合（最近では4種混合）ワクチンにジフテリアトキソイド（ワクチン）が含まれています。このワクチンは、当該感染症に対しても有効であると考えられています[8, 9]。

Q6 ペットが感染したかもしれないと思った時は？

飼育している犬や猫が咳やくしゃみ、鼻水などの風邪様症状、皮膚炎、皮膚や粘膜潰瘍などを示しているときは、早めに獣医師の診察を受けるようにしてください。

また、こうした犬や猫に触る場合は、過度な接触を避け、手袋やマスクをし、触った後は手洗いなどを励行してください。

Q7 日本での発生状況は？

2001年から2017年11月末までに国立感染症研究所で発生を確認しているものは、25例です。公表されているものは以下のとおりです。（国立感染症研究所調べ）

No.	発症年月	患者	臨床経過等	その他	参考文献
1	2001年 2月	50歳代、女性、 千葉県	呼吸困難、嘔声、上咽頭 と喉頭前庭に白色偽膜 形成	飼育している猫 20 匹 飼のうち 1 匹で皮膚 炎	[10, 11]
2	2002年 10月	50歳代、男性、 千葉県	同 上	1 例目の患者と同地区 に住居	[12]
3	2005年 9月	50歳代、男性、 岡山県	左耳下腺部腫脹、軽度の 咳等	飼育していた犬が皮 膚炎（犬死亡後に患者 が発症）	[13]
4	2005年 10月	50歳代、男性、 大分県	肺に多発性空洞病変、 咳、痰、発熱等	猫 12 匹飼育	[14]
5	2006年 7月	50歳代、女性、 神奈川県	呼吸困難、嘔声等。上咽 頭と喉頭前庭に白色偽 膜形成。ジフテリア抗毒 素使用により加療	その後患者は重症肺 炎の増悪により死亡	[15]
6	2009年 1月	50歳代、女性、 東京都	咽頭痛、嘔声等、上咽頭 と喉頭前庭に白色偽膜 形成	自宅で餌やりをして いる猫 5 匹中 2 匹か ら菌分離。	[16]
7	2010年 7月	50歳代、男性、 神奈川県	腋下膿瘍（穿刺液より菌 分離）	猫 10 匹飼育。屋外で も猫に餌やりを行う	[17]
8	2010年 10月	50歳代、女性、 茨城県	咽頭痛、嘔声等、上咽頭 と喉頭前庭に白色偽膜 形成	猫 1 匹飼育	[18]

9	2011年 4月	50歳代、女性、 滋賀県	同上	猫14匹、犬7匹、 ヤギ2匹飼育	[19]
10	2011年 12月	30歳代、女性、 山形県	右肘膿瘍（穿刺液より菌 分離）	猫6匹飼育	[20]
11	2012年 1月	30歳代、男性、 香川県	腋下リンパ節膿瘍（穿刺 液より菌分離）	親戚宅で犬3匹飼育	[21]
12	2012年 11月	70歳代、女性、 埼玉県	呼吸困難、嘔声等、上咽 頭と喉頭前庭に白色偽 膜形成	飼育している猫4匹 中1匹から菌分離	[22]
13	2013年 4月	20歳代、女性、 埼玉県	呼吸困難、嘔声等、喉頭 前庭に白色偽膜形成	猫18匹飼育	[23]
14	2014年 4月	6歳、女兒、 徳島県	頸部リンパ節膿瘍（穿刺 液より菌分離）	猫1匹飼育（発病時皮 膚病）	[24]
15	2015年 9月	60歳代、女性、 東京都	発熱、鼻汁等、気管支に 黄白色偽膜形成	猫3匹飼育（うち1匹 に皮膚疾患あり）。屋 外でも猫に餌やりを 行う	[25]
16	2016年 2月	17歳、女性、 北海道	皮膚病変	犬飼育	[26]
17	2016年 3月	63歳、女性、 栃木県	咽頭痛、呼吸困難より人 工呼吸処置要。咽頭から 正門にかけて白苔あり	猫7匹飼育	
18	2016年 3月	岡山県	右頸部化膿性リンパ節 炎	犬飼育（患者発症2ヶ 月後に死亡）	
19	2016年 5月	60歳代、女性、 福岡県	呼吸困難。救急搬送され て3日目に死亡。喀痰と 血液から菌検出。	屋外で猫3匹に餌や り	[27]

Q8 諸外国での発生状況は？

英国においては2007年から2013年までの7年間に20例の毒素原性コリネバクテリウム (*Corynebacterium diphtheriae* または *Corynebacterium ulcerans*) による人への感染が認められており、そのうち過半数の12例(60%)を毒素原性ウルセランス菌による感染が占めています

(https://www.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/417983/Diphtheria_notifications_and_deaths_1986-2014.pdf)。

また、フランスにおいては2002年から2008年までの間に12例の毒素原性ウルセランス菌による感染（うち2例で犬から菌が分離された）[28]が報告されています。